

組織運営等について

●農作物被害対策アドバイザー制度を活用し、(合)AMACとアドバイザー契約を結び、実施隊員スキルアップのための講習会、実地研修会並びに定期的な実施隊会議を実施。

ポイント①

猟友会所属隊員の知識やノウハウの伝授。

ポイント②

隊員間での情報共有。

※LINEグループ(隊員全員が参加できるグループを作成)
市内での被害状況や出没情報などを発信。

●組織、人、事業を動かすための心得

1.相手方がいる場合、同等かそれ以上の立場に自身がなければ物事は前に進まない。(知識・経験・意欲)

※知識がなければ学べばよい。経験がなければ、経験をつめるだけの場数を踏めばよい。まずは、何事にも挑戦してみる。意欲は、自身の意識しただけで変えられる。

2.沢山の人と会話をする事(信頼)

※農家廻りを積極的に行うことで、様々な話題や情報を得られ、獣害対策に限らず幅広い知識や人脈を作ることが出来る。自身が汗をかいた分だけ、信頼が得られる。

3.会合等への参加

※農家さんが行う、会合等へ積極的に参加する。2で意識したことの延長線として、より信頼を得ることに繋がる。

■出没写真【富里市十倉地区・旧洗心小学校付近】



午前10時30分頃

●資料①【イノシシ被害写真】



●資料②【アライグマ・ハクビシン被害写真】



●資料③【アライグマ・ハクビシン被害写真】



●資料④

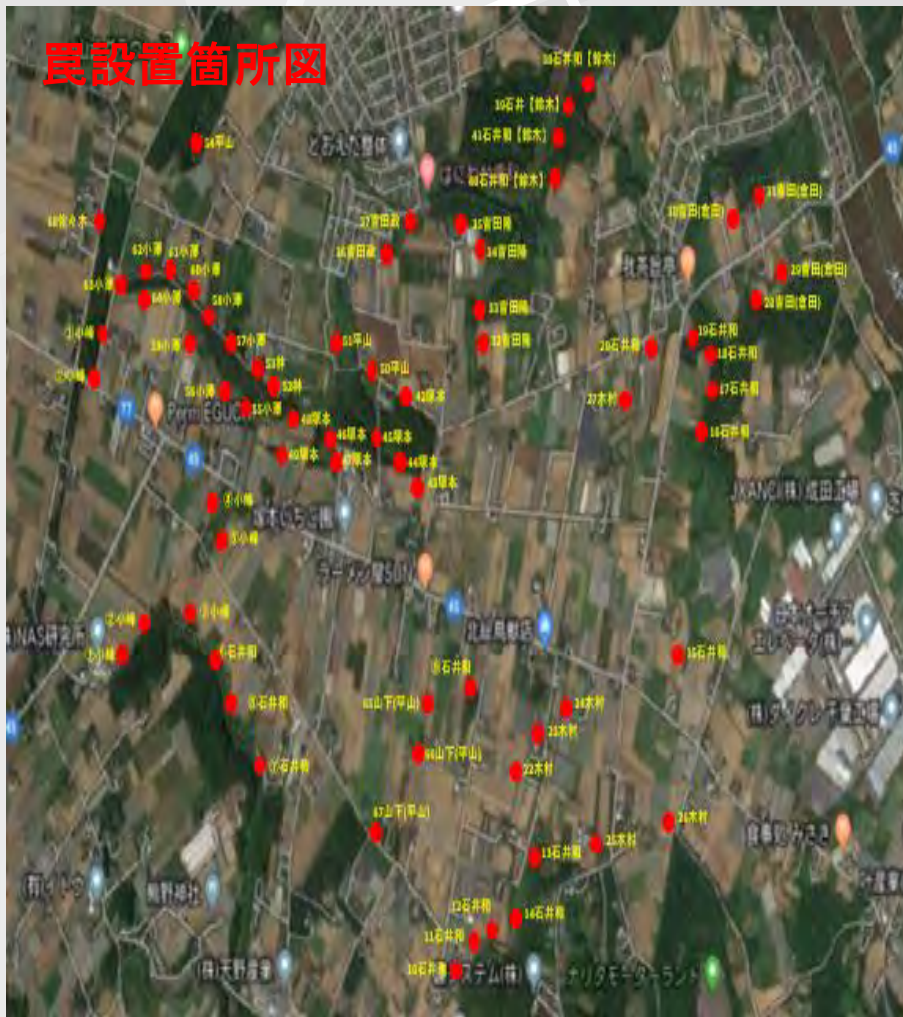
アライグマ爪痕



ハクビシン足跡



●資料⑤【地域ぐるみの対策】



●資料⑥【隊員による電気柵設置指導】



●資料⑦広域連携【被害未然防止イノシシ捕獲対策】



●資料⑧【集落環境診断会の様子】



JA富里市西部集荷場にて、集落環境診断会を行いました。当日は、52名の方が出席され、現地確認・生態・各地域の被害情報の共有など、地域ぐるみの対策へ向けての検討を行いました。